



この声、石川さんにとどけ！ （10・31 狭山中央闘争 明治公園）

10・31寺尾差別判決十力年糾弾・狭山再審要求・事実調べ早期実現 中央総決起集会 開かる

一九七四年、東京高裁Ⅱ寺尾による「無期懲役」なる断じて許せない反動差別判決から十周年を迎える10月31日、東京・明治公園において、「狭山再審要求・事実調べ早期実現 中央総決起集会が開催され、動労千葉も青年部を中心に決起し、部落解放同盟と共に最後まで闘いを貫徹した。」

狭山闘争の圧殺Ⅱ部 落差別の強化を狙う 反動・中曽根体制

現在、狭山裁判をめぐる局面は、「特別抗告審の申し立」以降、すでに二年七カ月がすぎるといふ異例の事態のなかで、特別抗告申し立—以降だけでも、3つの決定的な無実の新証拠と11の鑑定書・補充書を提出

して、石川さんの無実を一点のくもりもなく証明しているのだ。にもかかわらず、再審を開始しようとしないうちに権力・裁判所の態度のなかに、われわれは、一方で正義の声に追いつめられつつも、あくまでも狭山闘争圧殺をもって部落差別攻撃の徹底的な強化を狙う敵の意図をはっきりと見ぬかなければならない。

「よろいに身をつつんだ闘い」「権力の打倒」で無罪勝利を！ —獄中21年の石川氏の叫びにこたえよう—

明治公園には、こうした決戦局面に対して闘いへの熱気と怒りが渦まき、部落解放同盟を先頭として、会場を立すいの余地なく埋めつくした人々の波は、ここ数年來の狭山闘争のなかで最大の規模にふくれあがった。

動労千葉からも、部落解放同盟千葉県連および千葉県労連からの呼びかけにこたえて、青年部代表三五名が参加し、「石川一雄氏即時奪還」狭山—三里塚の結合で反動中曽根を打倒しよう！の大横断幕をかがけて、都心デモを貫徹した。

「私の狭山事件は、部落差別を温存、助長、利用している権力の打倒なしに無罪勝利はありえない」「鎧（よろい）に身をつつんだ闘いが必要であり、この鎧の脱皮は無罪の声を聞いたとき以外にありえない」と、この間、血を吐くような檄を獄中か

ら発し続けている石川さんは、この日の集会にも「刻一刻と決戦は近づいている…。私はいかなることにも屈せず闘う」とのアピールを寄せ、更なる権力との非妥協の闘いへの決起を訴えた。

三里塚—狭山闘争の勝利を闘い とる労働運動を力強くおし進めよう

われわれは、中曽根が、戦争へとつき進む攻撃の重大なひとつの柱として、狭山闘争の圧殺—部落差別—人民分断支配の強化の攻撃があることをはっきりと見すえ、石川さん即時奪還・狭山差別裁判徹底糾弾の闘いを強化しなければならぬ。全ゆる差別を許さず闘いぬくことは、労働運動の原点である。部落差別の現実は無自覚であることは、結果として差別への加担だ。われわれは、三里塚闘争と結合して、労働運動の原則にかかわる課題として、狭山闘争のとりくみを更に強化しなればならぬ。獄中21年間の不屈の闘いを貫く石川さんの血叫びをわがものとして勝利の日まで闘いぬこう！



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

全力で結集しよう
国鉄労働者集会

鎧に身をつつみ、権力打倒で 無罪勝利をみちとろう —獄中21年、無実の石川さんの叫びにこたえよう—

臨調・行革粉碎！ 三里塚